

## 事業計画書

事業名	多角的環境教育事業
枠の種類	ネーミング事業 (株)富士薬品ドラッグセイムス (環境保全支援事業)
1. 事業の目的	<p>見沼田んぼで、希少動植物の保護活動(年 24 回)、耕作放棄地を耕し(4 月～11 月まで週 1 回)、親子で畑体験(年 11 回)、自然観察会(年 12 回)を定期的に行っているが、点としての活動なので、線として自然のつながりの視点を重視した催しを行いたい。</p> <p>1. 防災キャンプ 災害時のリスクを減らす一つの方法は野外体験である。トイレや食べ物の水使用を減らすことを学び、有事における心の柔軟性を培う。自然なくしてヒトの生活はあり得ないことを体験や話を通して理解を深める。</p> <p>2. 環境講演会 海外の環境教育の取り組みを知ることで、ヒトと他の生きものとの接し方も違ってくるので、日常の気づきを増やす。</p>
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<p>埼玉県さいたま市、川口市にまたがる見沼田んぼは、約 1200 畝を有しているが、年々高齢化が進み、田んぼや畑が減少し、耕作放棄地が増えている。耕作放棄地では外来種が繁茂、一方耕作地では在来種が確認されている。その中であって、耕作放棄地での外来種を除去し、希少種保護と耕作をささやかにしている。そのつながりの中で、広い視野を持った感覚を育て、自然保護とヒトとの関係に新たな一つの流れを作りたい。</p> <p>1. 自然とヒトとのつながりの視点を一人一人が持つことで、環境教育の原点を育てる。</p> <p>2. 見沼地域においては、広大な広がりはあるものの耕作放棄地は外来種に覆われ、ゴミ捨て場になっているところもある。現在、耕作放棄地を地主から借り受け耕作を行っている。その作物を食することで食育にもつながる。</p> <p>3. 作物は虫の受粉が必要で、ヒトの暮らしには自然の助けが必要であることを、体験を通して学ぶ機会を作る。</p> <p>4. 地域の子育てグループとの連携で防災に備える。自然体験や海外の取り組みを学ぶ催しの開催は現在の母子にとって必要である。</p>

3. 具体的な事業内容

1 防災キャンプ

実施場所は、さいたま市緑区南部領辻にあるトラスト保全第1号地東屋と五斗蒔周辺の畑で実施する。さいたま市緑区で活動している子育てグループ(ぐーたよきぱーていー)と連携をとり実施する。15家族(45~55名)の参加を想定している。

日帰り体験とし、10時~15時の時間帯に行う。

有事を疑似体験するために必要な機材

- ・折りたたみ可能な荷物を運ぶキャリアに子どもを乗せて移動する体験を行う。
- ・電気の使用が出来ないときの対策として、食物を保管するための氷点下クーラーと氷点下パック
- ・枯れ枝などを利用して調理できる移動式ピザ釜
- ・太陽光で充電可能なバッテリーとその付属品

まとめ

- ・体験したことを映像に記録して、YouTubeを利用して多くの人に見てもらいPRする。
- ・アンケート結果はHP内で広報。

2 環境講演会

ドイツの環境教育に詳しく著書も多くある塩瀬治氏を講師に予定している。実施場所はさいたま市のコムナーレを申し込む予定で、子育てグループ(ぐーちょきぱーていー)と連携。トラスト協会のメンバーや一般の方に広報する。20家族(50名位)の参加を想定している。

講演内容

- ・バイオミミクリ(自然を活かした物)に気づくゲームを行ってもらい、自然の必要性を感じてもらおう。
- ・自然保護の大きなキッカケは市民からの声だという、ドイツの事例を学ぶ。
- ・ドイツでは、自然を知るために具体的にどんなものが用意されているかを本や生きものの隠れ家確保などの事例を紹介してもらおう。
- ・最後にエコ.エコの事例(希少種保護活動、観察会、里山体験など)も発表する。
- ・子連れの参加者のために保育コーナーを設置。子どもたちに自然素材のクラフト体験をしよう。

まとめ

- ・アンケート結果はHPにて広報。

4. 具体的な事業の実施計画

○事業のスケジュール

時期	
6月	防災キャンプ用ジャガイモの収穫
7月	会場確保
8月	機材の購入
9月	前日より準備。防災キャンプ
10月	講演会資料の打合せ 保育打合せ
11月	環境講演会
12月	映像まとめ
1月	YouTube 映像公開
2月	振り返り 次年度に向けて考察

○広報計画について

ニュースレター、HP、Facebook、Twitter で広報する。チラシを作り配布する他サギ山記念館、コムナーレ、桜環境センターなどへも配布する。

5. 個々の事業の実施により達成したい成果の具体的な内容

◎防災キャンプ

- ・備蓄品で食事を作る・・・どんな備蓄品が利用できるか考察する。
- ・水の使用量を減らす・・・無洗米と水をポリ袋に入れ湯せんでご飯を作る。

- ・YouTube などの動画の作成・・・防災マニュアルを本にしたいと考えたが、それよりソーシャルメディア使った方が有効だと考え、防災キャンプの様子を撮影し、防災クッキング、防災トイレの工夫、水の使用量を減らす工夫などをまとめて YouTube などの動画にアップし、多くの人に広報したい。動画の方が理解しやすくなるというメリットを考慮した。

- ・被災地の人の知恵・・・福島から避難している人たちからもお話を聞き、災害に必要な知恵も伝え、備蓄の知恵、備蓄した物を利用する工夫などをまとめたい。

- ・アンケートを実施し、具体的に役立ったことやこれから実施したいことを書いてもらう。回収率 100%を目指す。

- ・アンケート回収率を上げるため、アンケートを書いた方に間伐材で作ったネームストラップかドングリストラップを進呈。子どもアンケートは絵や575 を書いてもらう。アンケート回収率 100%を目指す。

◎環境講演会

- ・大人アンケートの実施し、参考になったことやこれから市民として取り組みたいことなどを書いてもらう

- ・アンケート回収率を上げるため、アンケートを書いた方に間伐材で作ったネームストラップかドングリストラップを進呈。子どもアンケートは絵や575 を書いてもらう。アンケート回収率 100%を目指す。

<p>6. 事業の実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災キャンプ総括責任者 加倉井憲一</li> <li>・防災キャンプタイムスケジュール及び人員配置、会計 加倉井範子</li> <li>・防災キャンプ畑野菜担当 藤井良二</li> <li>・防災キャンプ薪担当 佐井隆利</li> <li>・防災キャンプゲーム担当 鈴木孝雄</li> <li>・環境講演会総括責任者 加倉井憲一</li> <li>・環境講演会タイムスケジュール及び人員配置、会計 加倉井範子</li> <li>・環境講演会保育責任者 土屋聖子</li> </ul>
<p>7. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか</p>	<p>キャンプ用品が手に入れば、イベントが実施しやすくなるので、継続的に実施して行きたい。今は小中学生の親子の参加が多いが、高校生や大学生も巻き込んで活動に幅を持たせ、多世代、多文化交流の場にしていきたい。</p>
<p>8. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当会の活動場所は、見沼たんぼにあるトラスト1号地の隣にあり、トラストや近隣の農家さんとも良好な関係を作り協力し合って活動している。</li> <li>・活動が認められ、平成29年度彩の国埼玉環境大賞の優秀賞を受賞している。</li> <li>・専門の方に依頼し、周辺の動植物の調査を行い、そのデータを蓄積している。</li> <li>・会員は、自然観察指導員、森林インストラクター等を抱えているが、常に学ぶ姿勢を保ち観察会は予算が許す限り外部の専門家を招き、参加者と共に視野を広げている。</li> </ul>